

研究所だより

第361号
2017年4月11日
発行：土佐清水市教育研究所
TEL 82-3016

“さくら さくら やよいの空は 見わたす限り
かすみか雲か 匂いぞ出する いざや いざや 見にゆかん”
「さくらさくら」日本古謡（幕末頃）

～春爛漫 平成29年度スタート～

満開の桜に出迎えられ、各校では平成29年度の始業式、入学式が執り行われたことと思います。子どもたちの元気な声が学級やグラウンドを駆け巡っていることでしょう。

新年度を迎え、子どもも教師も夢や希望を持ち、やる気に満ちあふれていることでしょう。しかし、不安と期待が入り交じり、戸惑いもあろうかと思えます。教師集団がしっかりと子どもたちを支え、楽しく、喜びのある集団づくり・授業づくりに邁進して行くことを願っています。

～喜んで登校 満足して下校～ですね。



<教育センター職員の紹介>

この度の人事異動で新しく2名の職員を迎え入れ、総勢8名でスタートしました。本年度もよろしくお願ひいたします。

土佐清水市教育センター職員一覧

土佐清水市教育センター
所長
亀谷 幸則
主管全般
所長補佐
萬 知栄
主管全般補佐、庶務、予算等

Fax: 83-0782

少年補導センター 82-3501	教育研究所 82-3015		適応指導教室 82-3016	SSW
横山 充生 (補導教員)	勝間 康人 (主任研究)	奥谷 博史 (研究員)	泥谷 人美 (児童生徒相談員)	兼松 和典 出口 里奈
補導活動 相談活動 環境浄化活動 広報活動 研修活動	研究所主管全般	教育支援、調査研究 教育研究集会 情報教育、教育相談 不登校児童生徒支援 あすなろネットワーク 研究所庶務全般	不登校児童生徒支援 教育相談 あすなろ教室	教育相談全般

(SSW=スクールソーシャルワーカー)

教育センターでは、補導センター、教育研究所、適応指導教室、SSWの4部署が横の繋がりを密にし、連携を保ちながら、児童・生徒を取り巻く教育環境の整備、教職員・保護者等の教育相談体制を確立し、様々な教育分野に対応していきます。

○教育センターってどんな仕事をしているの？

【教育研究所】

- ・教育関係職員の研修に関すること
- ・教育相談に関すること
- ・教育に関する情報の収集、処理及び活用に関すること
- ・教育機器及び教材の調査並びにその活用に関すること

【適応指導教室】

- ・不登校児童生徒の健全な育成に関すること

【補導センター】

- ・青少年の健全育成に関すること

要は、教育全般に関わって、学校と先生と子どもと保護者のためにあるセンターです。特に、先生方には利用、活用していただければ幸いです。できるだけ協力と支援をさせていただきます。

<着任挨拶～よろしくお願ひします～>

☆亀谷 幸則さん（土佐清水市教育センター所長）

この度の人事異動により、教育センター所長として就任することになりました。

私自身、教育行政部門での業務は初めてのことでありまして、教育センターの運営や所長としての役割を考えたとき、その責任の重さに身の引き締まる思いではありますが、皆様方のご指導とご協力を賜り、精一杯努力していく所存ですので何卒よろしくお願ひいたします。

☆横山 充生先生（少年補導センター 補導教員）

この度の異動で幡多児童相談所から14年ぶりに清水に帰って来ました。これからも頑張りますので、よろしくお願ひします。

<購入書籍・DVD等の紹介> ~ご利用をお待ちしています~

☆書籍

○新教育課程ライブラリー

- ・中教審答申を読む（1）
- ・中教審答申を読む（2）
- ・「深く学び」深く考える

☆DVD（平和・人権教育教材）

〔人権教育〕

- 「シリーズ映像で見る人権の歴史」
- ・第1巻 東山文化を支えた「差別された人々」
- ・第2巻 江戸時代の身分制度と差別された人々
- ・第3巻 近代医学の基礎を築いた人々
- ・第4巻 明治維新と賤民廃止令

〔平和教材〕

- ・さとうきび畑
- ・地球の風ぐるま
- ヒロシマ・ナガサキに学ぶ
- ・予言
- ・戦争一子どもたちの遺言
- ・増大する放射能

～『教師力』アップ～

〈今日求められる教師力とは〉 大前 暁政准教授（京都文教大学）

教師力の中身は、立場によって変わる面があります。担任に求められる教師力と、管理職に求められる教師力は、違う面があります。

担任として必要となる「教師力」

担任として必要な教師力は次の三つです。三本柱といってもよいでしょう。

- (1) 授業づくりの力
- (2) 学級づくりの力
- (3) 子どもへの対応力

担任は、多くの授業を担当します。授業が上手にできなければなりません。また、学級集団をまとめ、学級をよりよいものにしていかなくてはなりません。さらに、様々な子どもに対応する力がなければなりません。

(1)「授業づくりの力」とは

たった三つの力ですが、これらの力を身につけるのは容易ではありません。というのも、これらの力には、さらに細かな要素が含まれているからです。

例えば、授業づくりの力は、次のような要素が含まれます。

- ① 授業自体を進める力
- ② 発問を考える力
- ③ 単元を構想する力
- ④ 教材を開発する力
- ⑤ 評価する力

「授業自体を進める力」とは、プレゼンテーションの上手さのことです。「教態」も含まれます。若手は、この時点でつまづいている場合が少なくありません。つまり、次のような姿が見られます。

- △ 自然な笑顔で授業を進められない。
- △ 声が後ろまで届いていない。
- △ 目線が届いていない。
- △ 板書が分かりにくい。
- △ 話す速さ抑揚などを工夫していない。
- △ 立ち振る舞いがぎこちない。

「発問を考える力」とは、知的好奇心を引き起こすような問いを考える力のことで

です。「単元を構想する力」とは、文字どおり、十時間程度の単元を組み立てる力です。一時間の授業なら何とか考えられる若手は多くいます。しかし、単元全体を自分で組み立てられる人は多くありません。

それは、経験や知識がないと、子どもがどういった反応をするのか、読めないところがあるからです。単元に入る前に、「このような力をつける」ために、「このような展開にしよう」と自分でオリジナルの単元構成を考えることは、なかなか難しいわけです。

「教材を開発する力」とは、新しい教材をつくって授業に活かす力です。この教材開発はとても奥深いものです。まず本や雑誌をたくさん読み、様々な情報を集めなくてはなりません。しかも、その教科の専門的な知識も必要となります。そのために、専門書を読まなくてはなりません。本を読まない教師は、ここで脱落することになります。

「評価する力」とは、子どもの達成度を評定する力です。様々な評価の観点を意識し、評価規準と基準をつくり、ノートや観察、自己評価などを使いながら、的確

に評定していく力です。

(2)「学級づくりの力」とは

学級づくりの力といっても、様々な力が含まれます。主な力として、次のものが

- ① 学級のシステムづくりの力
- ② 学級マネジメントの力
- ③ 集団を進める力

この三つはまったくの別ものの力になります。

「学級のシステムづくりの力」は、例えば、係活動や当番、日直、学級会などのシステムをつくることです。また、学級のルールをつくることもここに含まれます。

「学級マネジメントの力」とは、PDCAサイクルで、学級経営を進めることです。目標の設定から始まり、手立てを考え、手立てを実行し、フィードバックします。このPDCAサイクルのやり方を理解し、実行に移すことができる力です。

「集団づくりを進める力」とは、集団をまとめ、質の高い集団をつくっていく力を意味します。

(3)「子どもへの対応力」とは

子どもへの対応力も様々な要素が含まれます。

- ① 特別支援を必要とする子への対応力
- ② 子どもを見取る力
- ③ 生徒指導の力

「特別支援必要とする子への対応力」は、発達障がいへの理解が必要ですし、さらに、その発達の特性に合った指導法を学ばなければなりません。

「子どもを見取る力」も、様々な知識や技能が必要になります。発達段階への理解が必要ですし、実際にどう子どもを見取ればよいのかの方法論も必要になります。

「生徒指導の力」とは、問題行動に対して対応する力や、いじめや不登校などの問題に対応する力が含まれます。

さらに必要となる力」とは

最近では、担任には、次のような力も必要だといわれるようになりました。

- ① リーダーシップの力
- ② 保護者への対応力
- ③ チームで協働する力
- ④ セルフコーチングの力

「リーダーシップの力」とは、力強い統率だけでを意味しません。ビジョンを示し、子どもたちを導いていく力や、コーチングの力なども含まれます。

「保護者への対応力」も必要になる時代になりました。保護者の要望を聞きつつ、協力して教育をしていかないといけないのです。

「チームで協働する力」とは、学校関係者と、特に教職員集団と、協力して教育活動を進めていく力です。担任一人でやるよりも、組織として教育を進めた方が、より教育効果が高まります。

「セルフコーチングの力」は、内省の力とか、反省の力とかいわれることがあります。

反省だけなら誰でもしています。これを意図的にすることで、自分の教育行為を反省し、よりよい教育につなげていく力のことで

自分がやったことを客観的に振り返り、そして記録に残していきます。記録を見ながら、軌道修正し、よりよい教育への道を探っていきます。このような、自分自身へのコーチングの力が必要とされてきているのです。

「教師力を高める」という意味

ここまで述べたように、教師は、実に多くの力を身につけなくてはなりません。しかも、様々な力の中身には、「知識」と「技能」の二つがあるのです。さらに、「知識」には、理論的な内容と、具体的な方法や技術の二つの要素があります。

理論を知り、なおかつ、具体的な方法や技術などの指導法を知っておかないといけないのです。

さらに、知っているだけでは、できるとは限りません。知っている知識を使いこなすだけの技能にまで高めないといけないのです。

「様々な力が必要うえに、知識と技能を両方習得しておかないといけない。」まずはここの理解が、教員には必要になります。

一昔前にいわれたような『「人間性」(例：熱意、礼儀作法、協働できる謙虚さなど)があり、「反省する態度」があれば教師としてやっていける』というのは、もう通用しない時代にきているのではないのでしょうか。

いまや教師は先に示したように、実に様々な力を身につけることが必要とされているのです。

気付くことの第二は、若手がすぐに身につけられる力と、そうではない力があるということです。

例えば、単元全体を構想する力は、教科の知識もさることながら、子どもに対する理解も必要となります。つまり、知識と経験の蓄積がないと、単元構想をすることは難しいのです。

こういった力は、日々の学校の授業の中で、そして学校で研修を行う中で、身につけていかなくてはなりません。

つまり、学校現場での意図的な研修が必要となるのです。

一方で、すぐに身につけられる力もあります。授業でいえば、自然な立ち振る舞いや、声の大きさなど、すぐに習得できます。評価の仕方も、やり方さえ知れば、すぐにできるようになります。

学級のシステムづくりも比較的簡単に習得できます。係活動や当番活動のやり方など、初任者でもすぐに理解し、身につけていきます。

学級マネジメントの手法も、理論を理解することは容易く、理解できたら実行に移すことも苦ではありません。

こういった基礎的な力は、本来は大学で身につけるべき力です。しかしながら、

大学で身につけておくべき力がついていない。

よって、とても簡単なことで若手は困っているのです。

すぐに身につく教師力と、知識と経験の蓄積が必要な教師力と区別している人は多くありません。それゆえ、研修もバラバラ、系統性がないままに行われているのが現状です。すぐに身につけられるようなことから、時間がかかることまで、学校で研鑽を積んでいかないといけないわけです。もちろん、管理職としては、若手を育てるために指導と研修を行わないといけないのです。

(参考文献「指導と評価4月号」)

☆家庭訪問で子どもの姿をつかむ ～最初の出会いを大切に～

家庭訪問は、「家庭での子どもの様子や保護者の教育要求を聞いて、今後の教育に役立てるために行う。」という点をしっかりおさえておく必要があります。

最初の出会いですから、まずは保護者の話を聞く(傾聴)ことです。話を受け止めることから良好な関係(パートナー)ができてきます。話の中で「それは…」「けれど…」と、疑問を呈したり、否定的な言葉が出ると話は進みません。保護者の悩みに耳を傾け、共感的理解者になることから、共同の歩みが始まります。その点を配慮しながら家庭訪問に臨んではいかがでしょうか。

具体的におさえるポイントとして

○子どもの育っている教育環境から子どもの姿をつかむ

- ・災害、防災等の緊急時に対応するために、子どもの家の所在地を確認する。
- ・子どもの生活環境を知る。(地域の特性、通学路や危険箇所、家庭学習、遊び場、家事分担など)
- ・保護者の子どもについての考えなどを率直に聞く。(育児観、教育観)
- ・家庭における子どもの長所、短所を知る。(親の子ども観など)
- ・保護者と教師の情報交換、相互理解を図る。(子どもの病気、怪我、進路、友だち関係など、学校では話せないことなども話し合う場になる。)
- ・保護者と子、教師の信頼関係を築く。
- ・保護者からの学校や担任への期待や要望を聞き、収集する。

平成29年度外国語コア・エリア実践研究指定事業

平成32年度より小学校での外国語教科化に向けて、土佐清水市全体を研究拠点地域として、児童生徒の英語によるコミュニケーション能力の育成及び教員の指導体制の充実を図ることを目的としています。具体的には、教員の指導力、指導方法及び学習評価の実践研究を行うため、外国語コア・エリア推進会議の中で推進プランを作成し、県教委及び大学等と連携を図り、研究授業等を実施するなどの研修を計画しています。(公開授業：幡陽小学校、清水小学校、清水中学校)事務局は、教育研究所(奥谷・勝間)が担当します。

—今後の予定—

- ・第1回外国語コア・エリア推進会議 5月11日(木) 15:30～

